

## 1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 6 月 5 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	7074000219		
法人名	株式会社 相即		
事業所名	グループホーム いやしの家		
所在地	福岡県糟屋郡志免町大字別府137-16 〒 811-2205 (電話) 092-937-0318		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年6月1日	評定確定日	平成21年6月29日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 5 月 1 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 19 人	非常勤 3 人 常勤換算 17.1 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋ALC造り 4階建ての～	2・3・4階部分
------	-------------------	----------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 200,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 円) 無	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり		1,200 円程度	

## (4) 利用者の概要(5月1日現在)

登録人数	27 名	男性	0 名	女性	27 名
要介護 1	10 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	53 歳	最高	99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	特別医療法人 栄光会 栄光病院 / たかき歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲の人たちとともに、ゆっくりと、人と人をつなぎ、互いに支えあえるような普段着での地域との交流が行われている。自己目標管理シートによる苦手な課題への取組みや内部研修への能動的なかわりなどを通じて、職員に気づきを持たせ、質の向上を図る取組みが行われている。利用者の出来る事や出来そうな事の把握に努め、利用者毎のフロア内での役割分担を明確にし、日々の張り合いや生きがいとなる取組みが行われている。職員は、1日に1度利用者と向き合い、コミュニケーションを密に図る取組みを通じて利用者から様々なことを学んでいる。また、利用者に残された機能を活かせるように配慮しながらそばに寄り添い・見守ることで、利用者の目線にたったケアを行っており、利用者の生活に張りが出るような工夫が見られる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について、運営推進会議時に配布し報告を行い、改善について協議するなど質の向上への取組みがある。また、評価結果を各フロア出入りに置き、閲覧可能な状態にしている。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価実施にあたり、職員からの意見を聞きながら自己評価を取りまとめるなど、職員がかかわっての取組みがある。この結果、一人ひとりの職員が自分たちで問題を見出してケアへ取組むようになるなど、職員の質の向上が図られている。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 運営推進会議では、外部評価結果やホームにかかわる様々な報告、行事案内、避難訓練のお知らせ等を行っている。また、小・中・高校や地域高齢者の情報を頂くなど、活発な意見交換が行われている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の声かけや広報誌の送付、家族会、家族との個別面談など様々な機会を捉えて、利用者の状況や日々の様子等の報告を行い、家族の意見や思いの把握に努めている。家族会を家族と職員との距離を縮める場として活用し、意見や要望等を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。出された意見や要望等は、改善に向けてミーティングで協議が行われている。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 小・中・高校生の体験学習の受入れ、小学校の運動会や発表会の見学、毎月1回の下校時の見守り、公民館で行われる地域サークルへの参加など、幅広い世代との交流や普段着での地域交流が行われている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域との連携を念頭に入れた 理念を作成している。地域住民、小学校、地域 医療機関等との密な連携のもと、互いに支えあ えるような地域連携が実現している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏にホーム理念が記載されており、い つでも理念を確認することができる。また、朝 礼時に理念を唱和することにより、理念を意識 して毎日のケアへ取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	小・中・高校生の体験学習の受入れ、小学校 の運動会や発表会の見学、毎月1回の下校時の 見守り、公民館で行われる地域サークルへの参 加など、幅広い世代との交流や普段着での地域 交流が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果は、運営推進会議時に配布し 報告を行い、改善について協議するなど質の向 上への取り組みがある。今回の外部評価実施にあ たり、職員からの意見を聞きながら自己評価を 取りまとめるなど、職員がかかわっての取組み がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価結果やホームに かかる様々な報告、行事案内、避難訓練のお 知らせ等を行っている。また、小・中・高校や 地域高齢者の情報を頂くなど、活発な意見交換 が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への行政担当課職員の参加が見 られるも、会議以外での行政職員のホームへの 訪問や具体的な取り組みに関しては、課題であ る。		行政との具体的な取組みに関して努力はさ れているものの、行政側の都合もあることか ら難しいかとは思われますが、今後とも継続 的な取組みを期待します。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	施設内研修を通じて制度の理解と普及に努め ている。また、家族会時に制度等についての情 報提供を行い、各フロアに資料を配置するなど の取組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族面会時の声かけや広報誌の送付、家族 会、家族との個別面談など様々な機会を捉え て、利用者の状況や日々の様子等の報告が行わ れている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会や個別面談などを通じて、意 見や思いの把握に努めている。家族会を家族と 職員との距離を縮める場として活用し、意見や 要望等を表出しやすい雰囲気づくりへの取組み がある。出された意見や要望等は、改善に向け てミーティングで協議が行われている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合は、昼間の勤務帯 から入り、勤務帯をダブルさせて対応し、主任が 指導を行うなど、馴染みの関係づくりへの取組 みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、ヘルパー2級を条件付けているが、その他の制限は一切行われていない。職員は自己目標管理シートにより苦手な課題へ取り組むことにより、質の向上へと繋がっている。また、職員の資格を活かす場面を設定するなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を通じて人権について学ぶ機会がある。利用者を尊重する生活やケアを通じて、気づきを生むように働きかけるなどの取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標内容に応じて研修参加を促したり、ホームに設けている各種委員会の委員へ振分けするなど、研修参加の機会を確保している。また、内部研修の研修計画と資料の作成・進行を教育委員が行うなど、能動的にかかわることでのスキルアップへの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会ブロック研修での情報交換、グループホーム協議会全体研修への参加を通じて、他の事業所との交流の場がある。職員同士の相互訪問などへの実質的な取り組みはこれからである。		現在ネットワークを図られている事業所との連携のもと、職員レベルでの相互訪問や情報交換、交流などの機会の確保に努められ、更なる質の向上に向けた取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用者の入居時、他の利用者の言動を良く観察して、職員が間に入ってフォローしたり、コミュニケーションをとるなど、馴染みの関係を作っていく取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの知恵や言い伝え、生活様式など、日々のかかわりの中で利用者から様々なことを学び、支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族面会時や家族面談時に家族の思いや希望の把握を行い、入居時の面談や日々のかかわりを通じて、利用者の思いや出来る事、残存能力などの把握に努めている。把握した内容は、センター方式に記録し情報の共有を図り、介護計画書に反映させる等の取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者がセンター方式の情報や担当職員が他の職員から収集した意見をまとめ、介護計画を作成している。チームケアの観点から、統一した支援ができるようにより具体的な手順書の作成がある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のフロアミーティング時に、利用者への 声かけや対応の仕方について情報交換と確認が 行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	小学校へ講師として招かれたり、小・中・高 校生の体験学習の受入れ、集団下校時の見守 り、認知症専門医、内科や専門科医院等の医 療連携による適切な受診の支援など、柔軟な対 応が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医による往診、医療連携を活かし た適切な受診支援が行われている。入居前から のかかりつけ医への受診は家族対応であるが、 今までのかかりつけ医とホーム協力医との連携 を図る支援が行われている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の考えを説明し、 その時々利用者の状況に応じて、家族・専門 医等による話し合いを行い、利用者が最も楽に 過ごせる方向での支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者をよく観察したうえでのさりげない対 応や傾聴、寄り添い・見守りなど、利用者 を尊重した対応が見受けられた。記録類は、事務ス ペースで適切に管理されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、 食事にかかる時間、食後の過ごし方、日中のす ごし方など、利用者の希望やペースを尊重した 支援が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	栄養士が立てたメニューを基に、利用者の嗜 好を勘案して各フロアでアレンジして調理が行 われている。料理の下ごしらえ、トレー拭き、 後片付けなど、利用者の出来る事を把握しての 支援が見受けられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	1日おきの入浴である。朝風呂の好きな方は 午前中の早い時間帯での入浴や仲の良い利用者 と一緒に入浴など、入浴を楽しめるような支援 がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	お盆拭き、鍋拭き、台拭き、花の水やり、 カーテンの開閉など、利用者毎のフロア内での 役割を分担し、介護計画書に取り入れて、日々 の張り合いや生きがいとなるような取組みがあ る。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	利用者の希望による散歩、買物支援、公民館 でのサークル参加など、介護計画書に取り入れ て支援している。また、月に1度の行事として 外出を行うなど、戸外に出ることを意識して の支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	利用者の状態のキメ細かな把握により外出傾 向を察知し、一緒に外出したり仕事を頼むなど の対応がある。各フロア出入り口にはセンサー が設置されており、1階エレベーターホールは 事務所から目が届くなど、利用者の安全な暮ら しに向けての配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いによる避難訓練の実施 と、毎月の消火栓や消火器の場所の確認が行わ れている。運営推進会議時に避難訓練のお知ら せを行い、非常災害時の地域での連絡網を頂く など、協力体制が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士がメニューとレシピを作成し、各フロ ア毎に調理が行われている。食事摂取量の把握 を行い、必要な利用者に対して水分量の把握を 行つての支援がある。利用者の状況に応じて食 べやすくするため、おかず等を目の前で細かく するなどの対応が見られた。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット出入り口には、季節を意識した飾 りがさりげなく飾られており、ホーム内は外出 時の写真を掲示するなど、居心地良い空間作り への工夫がある。リビングでは仲の良い利用者 同士が楽しそうに会話する姿から、心地よい空 間であることが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に合わせて床にテープで居室方 向を示したり、目線の高さに合わせた居室の表 示など、利用者に配慮した工夫がある。居室 は、箆笥、洋服かけ、写真、ぬいぐるみ、趣味 の品などの使い慣れた物や思い出の物が持ち込 まれ、居心地良い居室作りへの配慮が伺える。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号